



## 実施報告書

「地域づくり円陣」とは、地域づくりの原動力としての“エンジン”と、戦略・戦術を練り、意思統一しながら士気を高め合う“円陣”を掛け合わせたものである。

私たちって  
なんか、  
いい関係

### われらwin-win同盟!

地元を元気にする協働のシカケとシクミ

- 主催●石川地域づくり協会
- 応援●石川県内の地域づくり団体のみなさん
- 開催日●平成22年11月7日(日)
- 会場●〈分科会〉加賀市内の4会場  
〈全体会・交流会〉竹の浦館

平成23年3月

## 【目次】

- 「円陣 2010」コンセプト、当日プログラム…3
- 全体会レポート① 歓迎のメッセージ…4
- 全体会レポート② 石川地域づくり表彰…6
- 第1分科会レポート「スローフードとまちづくり〈加賀版〉」…8
- 第2分科会レポート「城下町大聖寺の景観まちづくり」…12
- 第3分科会レポート「地域ブランドはこう創れ！」…16
- 第4分科会レポート「まちの魅力で人を巻き込め！」…27
- 第5分科会レポート「石川の多文化共生の進化、深化、新化をさぐる」…32
- 全体会レポート③ ひな壇トーク！「地域づくりと Win-Win の関係」…37
- 参加者アンケート…45
- 交流会…48
- 事務局…50



## ■「円陣2010」のコンセプト

ものごとには勝ち負けは、確かにあるが、地域づくりに勝ち負けはあるのだろうか。そもそも勝ち負けとはなんだろう。

近頃、win-win の関係という言葉が使われるようになってきた。双方に利益をもたらす関係と訳されるが、それよりも「なんか、いい関係」と意識した方が、私たちにはぴったりくる。なぜなら、利益は地域づくりの手段に過ぎず、目的は地域に住まう人で「いい関係」をつくることにあるからだ。だから、win-win は「ウィン♡ ウィン♥」とかわいらしく発音することが望ましい。

ところで、いい関係のひとつが協働である。「協働のまちづくり」が提唱されて久しいが、その関係が相変わらず上下であったり主従であったりしていないだろうか。協働の当事者が、それは行政とNPOであったり、NPOと企業であったり、あるいは、地域住民どうしであったりするのだが、その当事者の思いを実現していく協働のありかたを、シカケとシクミをキーワードに、もう一度考えてみようと思う。

シカケがエンジン（動力）なら、シクミはトランスミッション（動力伝達装置）である。さあ、地域づくり円陣を始動させよう。加賀市で活躍する地域づくり団体が、それぞれの課題解決のために、5つの分科会を用意し、地域づくり仲間の参加を待っている。

## ■当日プログラム

### ◆分科会 各会場

10:00 分科会開始 14:30 すべての分科会が終了

第1分科会「スローフードとまちづくり〈加賀版〉」

第2分科会「城下町大聖寺の景観まちづくり」

第3分科会「地域ブランドはこう創れ！」

第4分科会「まちの魅力で人を巻き込め！」

第5分科会「石川の多文化共生の進化、深化、新化をさぐる」

### ◆全体会 竹の浦館・多目的ホール

15:00 開始 18:00 終了

歓迎のメッセージ、石川地域づくり表彰、分科会報告、  
ひな壇トーク！「地域づくりとWin-Winの関係」

### ◆交流会 竹の浦館・多目的ホール

18:30 開始 19:30 終了

### ◆夜なべ談義（自主開催）

19:30～



全体会レポート①

# 歓迎のメッセージ



■ ようこそ、加賀市へ  
開催地・歓迎のあいさつ

加賀市長  
寺前 秀一

私たちのふるさとである加賀市で「いしかわ地域づくり円陣 2010」を開催していただけますことについて厚く御礼申し上げます。「石川地域づくり表彰」では、加賀市のNPO法人「竹の浦夢創塾」が大賞をいただけると聞いています。今回受賞されました団体・個人の皆さんに心よりお祝い申し上げます。

先日、私の古い友人がご夫妻で訪ねて来まして、加賀市内を一緒に回り、食事をしました。その際、彼らから、実際に感じた加賀市について、さまざまな意見や提言を聞かせてもらいました。とても多くこの場では紹介しきれませんが、大変有り難く参考になりました。

加賀市には観光や農業、中心市街地などさまざまな分野において、ありすぎるぐらい政策があります。

私が改めてお願いしたいのは、地域住民の皆さんが主体となり、その気になって考えて、いろいろな意見や提言をしていただきたいということです。

加賀市内では、「竹の浦夢創塾」はじめ、多くの地域づくり活動団体の皆さんが、自分たちで考え、活動されています。活動されていく中で障害がある場合は、それを行政側が受け止めて、解決や軽減をめざしながら、皆さんの地域づくりをお手伝いしていきたいと願っています。

本日の分科会、全体会、交流会は、意見交換や情報交換などが行われる、地域づくり活動にとって大変貴重な場です。「いしかわ地域づくり円陣 2010」のご盛会を心よりお祈りしています。



■主催者あいさつ

石川地域づくり協会会長  
石川県企画振興部部長  
植村 哲



本日は、お休みの日、またお仕事では稼ぎ時である日曜日にもかかわらず、県内外から多くの地域づくりの同士の方々にお集まりいただき、誠にありがとうございます。皆さんがお仕事の傍らで、熱心に地域づくり活動に取り組んでいらっしゃることに、あらためて敬意を表したいと思います。

NPO 法人 竹の浦夢創塾の皆さんには、設営や運営にご尽力いただきまして、本当にありがとうございます。全体会の会場であるここ「竹の浦館」は、かつて北前船の船主や村の有志の方々が地域の人材育成を願って建てられた小学校だったと聞いています。まさしく先代からの地域づくりへの思いが凝縮された場所と言えるのではないかと思います。

「いしかわ地域づくり円陣」は平成8年度から始めて今回で15回目となり、いろいろな歴史を積み重ねてきました。企画運営のほとんどを運営委員の方々、あるいはコーディネーターの方々、開催地の地域づくり団体のメンバーの方、自治体関係者の方に行っていただいています。関係者の皆さんに厚く御礼を申し上げる次第です。またこの後、「石川地域づくり表彰」の表彰式が行われますが、受賞された皆さんに心からお祝いを申し上げます。

今回の開催コンセプトは「われら win-win 同盟！」です。開催パンフレットに解説を掲載していますが、私が思ったことも少しお話しさせていただければと思います。

地域づくりの活動は、一般的な考え方で言います

と、どうしてもお金・時間・手間といったコストがかかって、経済的な利益が直接見出しにくい、ともすると損やロスと捉えられがちかも知れません。しかしながら、地域のコミュニティの方々の心や、人への感謝、感動、誇りといった人間としての充実感を基準としてみると、実は損ではなく得であり、今回のコンセプトである「win-win」になってくるのだと思います。こうした損から得への発想の転換が、皆さんの活動の原動力になっているのではないかと考えています。地域の中で、こうした発想の転換にご賛同いただける方をいかに増やしていくか、自発的な参加や行動への同意をどう得ていくか、エンジンである原動力をいかに推進力であるトランスミッション（動力伝達装置）にしていくかということです。

しかし、「言うは易し行は難し」でありまして、皆さんは日々、いろいろな苦勞を重ねながら活動されていることと思います。そうした試行錯誤の中で悩みや知恵を共有できる、「いしかわ地域づくり円陣」のような場で生まれる人材のネットワークは極めて重要です。さまざまな課題に直面している石川県内の各地域が、そこに住む人たちが、胸を張って自分たちのことを誇れるようになることをめざしたいと考えています。

今後、今日お集まりの方とともに、私たちががんばっていくことを確認させていただきながら、私の挨拶とさせていただきます。

全体会レポート②

# 石川地域づくり表彰 (平成 22 年度)

～表彰状授与式、受賞者の活動報告～

## ■ 「石川地域づくり表彰」 審査経過および講評

石川地域づくり協会運営委員長  
大湯 章吉

「石川地域づくり表彰」を受賞された皆さん、誠におめでとうございます。皆さんの活動に敬意を表しますとともに、今後もさらなる地域づくりに精励されますことをお願い申し上げます。

本日は審査委員の谷本互座長が出席できないため、私が座長の講評を代読させていただきます。

「石川地域づくり表彰」は平成9年度に創設され、2年に1回実施してきました。地域づくり活動の活性化を図るという目的で、昨年度からは毎年実施することとし、今回で8回目になります。

今回の選考の経過をご報告させていただきます。審査会は平成22年10月15日に行われ、先進・独自性、継続性、発展性、自主性、協働・連携性、効果の6つの観点から審査しました。

大賞の「特定非営利活動法人 竹の浦夢創塾」については、発酵文化の継承など、テーマ性と拡がりを感じます。新たな発酵食品の開発等、積極的な活動を評価しました。

奨励賞の「NPO法人 ぽっかぽか」は、おもちゃ図書館やおもちゃの修理など、ユニークで地域ニーズに合った取り組みをしている点を評価しました。

奨励賞の「小松市健脚推進ボランティアの会」は、介護予防運動を地域に普及させるという点で社会的な意義が大きいことを評価しました。



奨励賞の「特定非営利活動法人 志ネット・石川」は認知症を正面から受け止め、共存できる社会をめざし、中学生へのアプローチなど、的を射た試みが輪になっていっている点を評価しました。

個人部門の向峠智隆氏は、能登町岩井戸地区に伝わる「猿鬼伝説」による地域おこしを行い、「猿鬼(さるおに)」を世に出した功労を評価しました。受賞された団体や個人の活動には、地域づくりにヒントとなるものが多くあると思います。本日お集まりの皆さんと、地域づくりに関する情報を共有し、石川の地域づくり活動がより活発になることを祈念しながら講評とします。

私のほうから一言付け加えさせていただきます。本日まで参加の皆さん方も活発な活動を展開されておられると思います。「石川地域づくり表彰」は、活動成果を確認し、互いに刺激し合いながら、県内の地域づくり団体活動を一層活発にすることが目的です。来年はぜひ、たくさんの団体のご応募をお願い申し上げます。過去に大賞を受賞された団体以外は何度でも応募ができます。今回、奨励賞を受けられた3団体の皆さんにも、さらに成果を積み上げていただき、大賞をめざしていただきたいと思います。

## ■表彰

### ◆石川地域づくり賞(団体部門)・大賞

#### 特定非営利活動法人 竹の浦夢創塾(加賀市)

平成14年に設立。地元食材を使って、食の安心・安全を提唱する各種伝承料理教室、親子料理教室の開催や、へしこなど発酵食品の製造・販売、平成21年度からは地元の梨や筍を使った酢の研究・製造・販売を行う。キッズキッチン(子ども料理教室)や各種体験教室も実施し、指定管理者として管理している竹の浦館は、地域活性化と文化交流の拠点となっている。



石川県知事の代理として植村会長から表彰状が授与された。その後、これまで取り組んできた活動内容が報告された

### ◆石川地域づくり賞(団体部門)・奨励賞

#### NPO法人 ぽっかぽか(七尾市)

平成18年に、おもちゃ図書館の活動を目的に仲間が集まり、ボランティアグループとして移動おもちゃ図書館活動等を始め、その後、おもちゃの貸出や無料修理等事業の拡大を行う。平成22年4月にNPO法人「ぽっかぽか」を設立し、子ども用品(リ

サイクル) ゆずり市の開催、一時預かり保育、障害児親子の交流体験活動や療育指導の支援等、子育てしやすい環境づくりに取り組んでいる。

#### 小松市健脚推進ボランティアの会(小松市)

市が考案した、転倒予防のための「こまつ健脚体操」「こまつ健腕体操」を普及させ、地域ぐるみでの介護予防を行うことを目的に、平成15年から活動し、平成18年に会として設立。老人クラブが各町で行う「健脚体操教室」「いきいきサロン」への指導協力、継続支援を行い、活動は年々拡大している。

#### 特定非営利活動法人 志ネット・石川(白山市)

在宅福祉の充実にと、地域支援活動をしていた任意団体を平成16年に法人化し、ミニデイサービス事業や認知症介護講座事業を展開。平成21年からは「認知症の正しい理解のための出前講座」を中学生を対象に行い、認知症に対する地域の偏見を取り除き、本人が望むところで安心して安全に生活が続けられるよう、活動を行っている。

### ◆石川地域づくり賞(個人部門)

#### 向峠 智隆(むかいとうげちりゅう)(能登町)

昭和62年、当日公民館長(現、岩井戸公民館)への就任を契機に、地域に伝わる「猿鬼伝説」をモチーフにした地域活性化の取り組みを開始。同年から猿鬼伝説の舞台・岩井戸地区で「猿鬼歩こう走ろう健康大会」を開催、平成5年からは「全国鬼サミット」へ参加するなど、「猿鬼伝説」を全国に発信している。

